

近況

誰も見たことのない絵を

画家 上野 洋嗣さん(32)＝熊本市

写真と見間違えるほど写実的で、幻想的な油彩画の世界に引き込まれた。

「オーソドックスながら誰も見たことのない絵を描きたい」。穏やかに語る作家の表情から、絵と真摯に向き合うのを感じる。

2008年に崇城大大学院芸術研究科を修了。実際の風景の再現にこだわり、細密に描いてきた。海や湖、空を描いた作品は、まぶしささえ感じさせる明るい画面だった。

近年は、森や茂みの中の洞窟などをモチーフにし、しっとりとした空間を表現。同世代の画家に「リアルの中にシュールレアリスム（超現実主義）の感じがある」と評価されたのがきっかけとなり、シュールの感覚を意識しているという。

宇土市の御輿来海岸を題材にした最新作「浸食」（写真正面）は断崖

絶壁のように見えるが、実際の高さは1メートルほど。視覚的なトリックも仕掛ける。

さまざまな表現を試し、独自のスタイルを追究する。それは熊本地震後も変わらないという。「芸術は世界を写す鏡。環境や時代、思想が自然と作品に反映されれば」。気負いはない。（中原功一朗）

※5年ぶりとなる上野さんの個展は、熊本市東区のなかお画廊で5日まで。



5年ぶりの個展を開いた画家
上野洋嗣さん＝熊本市東区